

2024年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		<input type="checkbox"/>	
科目名	解剖学実習			担当講師	秋田恵一、二村昭元、他		
分野	選択必修	授業方法	講義・演習	実務経験			
単位数	1単位	時間	45時間	学年	2年次	学期	後期
概要	<p>医学、医療について学ぶためには、まず基礎医学特に解剖学について学ばなければならない。人体の形態、構造についての基礎的知識を修得させる。また、実習を通してより理解を深める。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨の発生、構造、分類について説明できる 2. 骨の名称、骨の部位の名称を理解し、神経、血管との関連を説明できる 3. 視覚器の構造を理解し、他の器官との関連を系統立てて理解し機能を説明できる 4. 平衡感覚器の構造を理解し、他の器官との関連を系統立てて理解し機能を説明できる 5. 嗅覚器の構造を理解し、他の器官との関連を系統立てて理解し機能を説明できる 6. 味覚器の構造を理解し、他の器官との関連を系統立てて理解し機能を説明できる 7. 神経系の構造を理解し、他の器官との関連を系統立てて理解し機能を説明できる 8. 脳幹を分類し、各部の名称と働きを説明できる 9. 小脳の構造と各部の名称と働きを説明できる 10. 間脳各部の名称と働きを説明できる 11. 間脳と大脳との機能の結びつきを説明できる 12. 大脳の構想と各部の名称と機能局在について理解できる 13. 脊髄の構造、各部の名称を説明できる 14. 脊髄神経系の伝導路を理解し、機能ごとの代表的な伝導路を説明できる 15. 脳脊髄膜、脳室系および脳血管について理解する 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	頭頸部①						
2	頭頸部②						
3	頭頸部③						
4	頭頸部④						
5	脳神経①						
6	脳神経②						
7	脳神経③						
8	脳神経④						
9	標本見学①						
10	標本見学②						
11	標本見学③						
12	標本見学④						
13	標本見学⑤						
14	標本見学⑥						
15	標本見学⑦						
16	標本見学⑧						
17	頭頸部復習①						
18	頭頸部復習②						
19	頭頸部復習③						
20	脳神経復習①						
21	脳神経復習②						
22	脳神経復習③						

23	まとめ
評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する
教科書	
参考書	
備考	

2024年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	一般臨床医学			担当講師	佐藤広高		
分野	選択必修	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	臨床で遭遇する一般的な症状から、その原因となりうる代表的な疾患を学ぶ						
到達目標	代表的な臨床症状を把握することによって、リハビリテーションを安全に行うための知識を習得する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	救命救急医療						
2	脳神経外科総論						
3	脳神経内科総論						
4	内科（循環器・呼吸器）疾患						
5	産科・小児科疾患						
6	耳鼻咽喉科疾患						
7	老年医学						
8	まとめ/達成度確認						
評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する						
教科書							
参考書							
備 考							

2024年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	接遇マナー演習 I			担当講師	加藤木和子		
分野	選択必修	授業方法	講義・演習	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	対人関係を営む上でのマナー・礼節・モラルを修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動きの礼儀作法を理解する。 2. 社会のルール、接遇を理解する。 3. 手紙の書き方を学ぶ。 4. 対人関係論を学ぶ。 5. 電話応対について学ぶ。 6. ロールプレイにて場面状況に合わせた対応を理解する。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション						
2	スピーチの組み立て方、ビジネスマナーの原則、挨拶、自己紹介のマナー						
3	名刺交換						
4	医療と福祉の原点						
5	接遇のマナー全般						
6	階段昇降、応接室の上座・下座						
7	一般教養と理念、医療従事者としての電話のマナー						
8	ビジネスレターの書き方						
評価方法	レポート課題(100%)						
教科書	配布資料						
参考書							
備 考							

2024年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	接遇マナー演習Ⅱ			担当講師	加藤木和子		
分野	選択必修	授業方法	講義・演習	実務経験			
単位数	1単位	時間	15時間	学年	2年次	学期	後期
概要	対人関係を営む上でのマナー・礼節・モラルを修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動きの礼儀作法を理解する。 2. 社会のルール、接遇を理解する。 3. 手紙の書き方を学ぶ。 4. 対人関係論を学ぶ。 5. 電話応対について学ぶ。 6. ロールプレイにて場面状況に合わせた対応を理解する。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション						
2	現場（セラピスト）からの提言						
3	役割からの接遇・マナーを考える						
4	役割からの接遇・マナーを考える						
5	臨床現場での服装・化粧について						
6	臨床現場での挨拶の仕方について						
7	臨床現場での面接について						
8	臨床現場での傾聴について						
評価方法	終講試験90%、レポート課題・出席・受講態度10%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	配布資料						
参考書							
備考							

2024年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	言語評価技術論			担当講師	稲川良、松本典之、田中眞一、高堀雅子、根本皇太、渋川悦子
分野	選択必修	授業方法	講義・演習	実務経験	言語聴覚士としての実務経験
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	2年次 学 期 前期
概 要	代表的な失語症検査である標準失語症検査（SLTA）について、演習形式で学ぶ。 代表的な高次脳機能検査を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 失語症者に対する検査の導入方法を理解し、実施できる。 2. SLTAの手続きを理解し、実施できる。 3. 代表的な高次脳機能検査の目的を理解し、実施できる。 4. 対象者の状況に配慮し、実施できる。 				

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	HDS-R・MMSE・FAB
2	HDS-R・MMSE・FAB
3	バイタル測定演習
4	バイタル測定演習
5	SLTA（導入）
6	SLTA（導入）
7	SLTA（聞く）
8	SLTA（聞く）
9	SLTA（話す）
10	SLTA（話す）
11	SLTA（読む）
12	SLTA（読む）
13	SLTA（書く）
14	SLTA（書く）
15	OSCE①（HDS-R, MMSE, FABから1検査実施）
16	OSCE①（HDS-R, MMSE, FABから1検査実施）
17	SLTA復習
18	SLTA復習
19	SLTA（プロフィールABC）
20	SLTA（プロフィールABC）
21	BIT・SPTA・VPTA
22	BIT・SPTA・VPTA
23	RCPM・Kohs・TMT-J
24	RCPM・Kohs・TMT-J
25	S-PA・ROCFT・RBMT
26	S-PA・ROCFT・RBMT
27	CAT

28	CAT
29	OSCE② (SLTAから抜粋して実施)
30	OSCE② (SLTAから抜粋して実施)
評価方法	実技試験 (OSCE①、OSCE②) 100%に基づいて学修成果を判定する
教科書	
参考書	
備考	演習時は実習着を着用すること

2024年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	言語聴覚療法学			担当講師	岡崎・田中・松井・草野・稲川・石渡・松本・高堀・根本		
分野	選択必修	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	4 単位	時 間	120 時間	学 年	3年次	学 期	通年
概 要	言語聴覚士の臨床に必須となる基礎学問、ならびに言語聴覚療法専門領域における基本的知識を整理する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学、生理学、音声医学、音響学、音声学、発声発語障害学の視点から、発話の障害を説明できる。 2. 言語医学、臨床神経学、失語症学の視点から、失語症を概説できる。 3. 言語医学、臨床神経学、高次脳機能障害学の視点から、高次脳機能障害を概説できる。 4. 摂食嚥下障害に関わる手術等の医学的処置、栄養管理について概説できる。 5. 耳鼻咽喉科学、聴覚医学、聴覚障害学の視点から、聴覚障害を概説できる。 6. 臨床心理学、生涯発達心理学、心理測定法、認知・学習心理学の視点から、コミュニケーションに関わるヒトの心理を説明できる。 7. 小児科学、言語発達学、言語発達障害学の視点から、小児の言語・発達障害を概説できる。 8. 言語聴覚療法を実践するための基盤となる社会法規を概説できる。 9. 言語聴覚療法の対象者における基礎疾患について概説できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	医学総論						
2	医学総論						
3	解剖学						
4	解剖学						
5	生理学						
6	生理学						
7	音声医学						
8	音声医学						
9	音響学						
10	音響学						
11	音声学						
12	音声学						
13	言語学						
14	言語学						
15	病理学						
16	病理学						
17	内科学						
18	内科学						
19	言語医学						
20	言語医学						
21	臨床神経学						
22	臨床神経学						
23	耳鼻咽喉科学						
24	耳鼻咽喉科学						

25	聴覚医学
26	聴覚医学
27	社会福祉学
28	社会福祉学
29	小児科学
30	小児科学
31	言語発達学
32	言語発達学
33	臨床心理学
34	臨床心理学
35	生涯発達心理学
36	生涯発達心理学
37	心理測定法
38	心理測定法
39	認知学習心理学
40	認知学習心理学
41	失語症学
42	失語症学
43	失語症学
44	高次脳機能障害学
45	高次脳機能障害学
46	高次脳機能障害学
47	発声発語障害学
48	発声発語障害学
49	発声発語障害学
50	発声発語障害学
51	嚥下障害学
52	嚥下障害学
53	嚥下障害学
54	聴覚障害学
55	聴覚障害学
56	聴覚障害学
57	言語発達障害学
58	言語発達障害学
59	言語発達障害学
60	まとめ

評価方法	中間試験（前期(16.6%)と後期(16.6%)に実施）と終講試験（前期(33.3%)と後期(33.3%)に実施）の点数に基づき判定する
教科書	言語聴覚士テキスト第3版. 医歯薬出版, 東京, 2018
参考書	必要に応じて各講義で紹介する
備考	指定テキストを読み、予習復習を行うこと